

WALA 薬用妊娠・産後ケアクリーム



妊娠中の腹部・会陰マッサージに。産後は、親子の腹部や足裏マッサージ用にお勧めです(新生児にも使用できます)。皮膚組織の柔軟性を高め、手先・足先の冷え、胃腸の痙攣、腎臓機能障害など、新陳代謝不調の改善を促すクリームです。

◇よく使えるケース◇

妊娠線の予防／出産準備の会陰マッサージ／妊娠中の腸仙痛／妊娠中の尿管感染症／妊娠中の循環機能低下／妊娠中の頭痛／後陣痛の緩和／乳児の便秘マッサージ／乳児の足裏マッサージ

全成分:酸化銅、液体パラフィン、ワセリン

◇妊娠線の予防

当クリームで妊娠早期から胸部、腹部、臀部、会陰部および太ももをマッサージすると、結合組織が弱い部分にできやすい妊娠線予防のサポートになります。

クリームを1週間に2回ほど直接肌に塗り、肌をつまむようにしてマッサージすると、肌が温まり血行が促され、皮膚に弾力性が出てくるので大変効果的です。妊娠七ヶ月からは、毎晩マッサージを続けます。

※お腹が張り気味の場合、マッサージは控えてください。

※クリームを塗布しても妊娠線が現れる場合もあります。

ビタミン C を多く含む新鮮な野菜や果物、ビタミン A を含むチーズ・卵、にんじん・ブロッコリーなどの蛋白元の多い食物は皮膚組織の柔軟性を促進するので、このクリームと併せて妊娠中は積極的に摂ってみましょう。

◇出産準備の会陰マッサージ

出産予定日の 8 週間ほど前から開始すると、会陰部分の血行が促され、組織の柔軟性が増します。

<会陰マッサージ方法>

クリームを指先にとり、会陰部分を小さな円を描くようにマッサージします。両手の親指を 3 - 4 cm ほど膣内に入れ、肛門および側面に向かって、ゆっくりと膣口を広げていきます。ヒリヒリまたは刺すような痛みを感じたら、2 分ほどそのままの状態を保ち、その後、会陰部分を陰唇まで横方向に 2 分ほどマッサージします。過去の出産での損傷箇所も、このマッサージで良好な状態に整えることができます。
(※膣口に炎症がある場合は、マッサージは控えます)

◇後陣痛

授乳によって子宮の収縮が促されると、後陣痛が強く感じられます。その場合は頻繁に当クリームを塗布します。なおカイロなどで腹部を温めるのは、再び出血を引き起こす可能性があるので控えましょう。

使用上の注意:急性症状においては、2 週間以上続けて使用しないでください。慢性症状への本薬品の長期使用は、医師に相談してください。薬品中に含まれる成分、特に酸化銅により、アレルギー症状が引き起こされる場合があります。本薬品をご使用の際、皮膚の赤み、及び痒みがみとめられたときは、薬品の使用を中止して、すみやかに医師の診断を受けてください。